

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策I-1-1 県内企業の経営・技術革新の支援
---------	-------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	産業振興課長 馬庭 正人	電話番号	0852-22-5291
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	しまね産学官連携促進支援事業（産学官連携促進事業を含む）		
目的	(1) 対象	学の知見を利用して技術力の向上を図ろうとする県内企業	
	(2) 意図	企業が有している技術課題が解決したり、大学等が有するシーズの製品化や事業化が進む	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ■技術振興AD・CD人件費&活動費：県内企業のニーズと大学等の技術シーズのマッチングを行うため、しまね産業振興財団に技術振興アドバイザー、技術コーディネーターの配置し、コーディネート活動を行う。 ■大学技術シーズ活用事業：産学連携の促進のため、大学シーズ等を発掘するとともに、県内企業等に対して県内シーズ発表会、関連公開講座、MOT講座を開催する。 ■技術シーズ育成/連携支援事業：県内の高等教育機関が持つ発展性があり、県内企業での実用化につながる研究シーズの研究・開発を支援する。 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	内容	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		85.00	90.00	95.00	100.00	
式・定義	島根大学における研究件数+松江高専における研究件数+県産技Cにおける研究件数 ※重複分は除く		実績値	80.00	77.00	97.00	108.00		
			達成率		90.60	107.80	113.70		%
指標名			年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		0.00	0.00			
式・定義			実績値	0.00	0.00	0.00			
			達成率		0.00	0.00			%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	62,199	62,080
うち一般財源(千円)	62,199	62,080

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

島根大学、松江高専、県産技Cの共同研究と受託研究の件数は以下のとおりとなった。
 H24・・・県内：77（県外134）
 H25・・・県内：97（県外129）
 H26・・・県内：108（県外129）
 県内件数が増加している。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

下記のような学の研究シーズから、県内で事業化もされており、県内企業の技術課題の解決・技術開発に繋がった。

<事例>
 ■低ノイズ電力変換器を適用した高品質コンパクト電気自動車キットの開発
 公道を走行可能な自動車を開発し、ナンバーを取得し公道の走行が可能となった。
 ■大容量の電気二重層キャパシタを利用した家庭用蓄電器の試作
 キャパシタの小規模制作が可能となった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 技術・研究開発を戦略的に推進する企業が少ない。
 - 学の技術シーズから実用化へ繋がるケースが少なく、産学連携、事業化へ発展するまでに時間がかかる。
- ②困っている状況が発生している「原因」
- 高等教育機関と企業との連携が不足している。
 - 高等教育機関のシーズと企業ニーズとの整合性に欠ける。
- ③原因を解消するための「課題」
- 高等教育機関と企業とのマッチング機会が不足している。
 - 高等教育機関のシーズと企業ニーズの情報が不足しており、両者へ十分に情報が伝わっていない。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- シーズ発表会や産学交流会等の開催により、産学のマッチング機会やシーズを活用できる機会を増やしていく。
- 技術コーディネーターや技術相談など通じて企業情報を集約するとともに、高等教育機関と情報交換を密にし、産学のマッチングへ繋げる。
- 県内企業が技術開発や課題解決を目的としたインターンシップ等の受入れを支援する事で、マッチングの機会を増やす。
- 高等教育機関から県内企業へ積極的に連携するための訪問やPR活動等を支援することでマッチングの機会を増やす

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）